



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和5年6月2日(金)
第3号 発行責任者 渋谷 恵子
在籍児童数144名
<http://higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

「頼る」スキル

校長 渋谷 恵子

校庭の木々の緑が色濃くなる時期となりました。先日の運動発表会には、多くの保護者、の皆様にご参観いただきありがとうございました。体育の学習の成果を精一杯表現し、できるようになって達成感を味わっている様子が、児童たちの表情から伺い知ることができました。それぞれのご家庭においても、練習の様子を見守り、励ましていただいたことと思います。主役である児童たちの活躍を、学校と家庭とが協力してサポートすることができたと感じております。ご協力に感謝いたします。

さて、運動発表会前に中学年(3, 4年生)が体育館で授業をしているところを覗いてみるとそこには、遅れてきた3年生の児童が自分の場所が分からないのか、入口の辺りで座っています。するとそれに気付いた4年生の児童が走ってきて、「〇〇さんは、こっちだよ」と声を掛けていました。一つ年上のお兄さんが助けに来てくれたのです。

また登校の時には、こんなこともありました。5年生の児童が走って学校に来ました。「1年生が転んでしまったので、助けに来てください」その声に、私も一緒に走ってその場所まで行ってみると、段差に躓いて転んでしまい、泣いている1年生の姿がありました。

どちらも自分が何とかしなくてはと思って、自然と行動したのでしょうか。さすが、4年生と5年生。下の学年の子を思いやる気持ちを行動に移すことができる、すわっ子の素敵な姿が嬉しくて、本人たちにはそのことを伝え、担任とも話題を共有しました。

「頼ること」については、日本人は一般に苦手とする人が多いという調査結果が出ているそうです。小さい頃は、当たり前のように周りの人に助けをもらっていたことが、大人になってくると困ったときに人に助けを求めることや(助けをもらうという)好意を素直に受け取ることについて、ハードルが高くなってしまいうようです。この、「困っている人が周りの人に助けてと言える力」を「受援力(じゅえんりょく)」という言葉で紹介したのは、内閣府の防災担当です。もともとは災害時にボランティアを地域で受け入れる環境・知恵などのことを「受援力」(支援を受ける力)としているのだそうです。では、「頼り」上手になるためにはどうしたらよいか。まず、助けを求める時、相手への敬意を示すこと(「〇〇さんには聞いて欲しいんです。信頼しているから相談したいのです」)。次に、相手への存在承認の気持ちを示しながら話すこと(「聞いてくれてうれしい」「助かりました」)。そして、相手への感謝を表すこと(「(具体的なことに対して)ありがとう」「話ただけでも楽になれた。ありがとう」と気持ちを伝える)。「頼る」ことで相手の負担になってしまうと思いがちですが、実は頼られた側の方が、「自分が頼られる存在である」という自己肯定感を高めるという効果もあるのだそうです。

『「頼る」スキルの磨き方』吉田 穂波著 株式会社KADOKAWA発行

児童たちもそうですが、私たち大人も困っているときにはいつでも「助けて」の言葉が言える学校、職場でありたいと考えます。ご家庭や地域においても困ったときは、お互いさま、いつでも誰でも「助けて」ということが自然と言えて、助ける・助けられる関係が当たり前に見られる学校、地域になるよう、力を尽くしてまいりますので、保護者、地域の皆様のお力添えをお願いいたします。

いじめ撲滅強化月間について

本市では、6月を「いじめ撲滅強化月間」と位置付け、市立全小・中・高等・中等教育・特別支援学校において、いじめ問題について考え、いじめが起きない集団や学校を作ろうとする意識を高め、児童生徒の豊かな人間性や社会性をはぐくむ取組の充実を図るなど、いじめの未然防止に向けた取組を推進しています。

本校においても以下の取組を実施します。

- 1、お話朝会での校長講話
- 2、いじめ撲滅に向けた学級スローガンづくり
- 3、児童会によるいじめ撲滅を目指したキャンペーン
- 4、いじめに関する「簡易アンケート」の実施 等